

東京藝術大学インフラ長寿命化計画（行動計画・個別施設計画）【概要版】

○ 目的

- ・ 本学が管理するインフラを対象として戦略的な維持管理等を推進することを目的。
- ・ 教育研究の基盤であり、財政への影響も大きい施設について、中長期的な視点で取組むべき事項を明らかにし、経営上のリスク軽減等につなげる。

○ 対象施設 上野団地、奈良団地、取手団地、松戸団地、千住団地

○ 計画期間 第4期中期計画期間（2027年度）まで

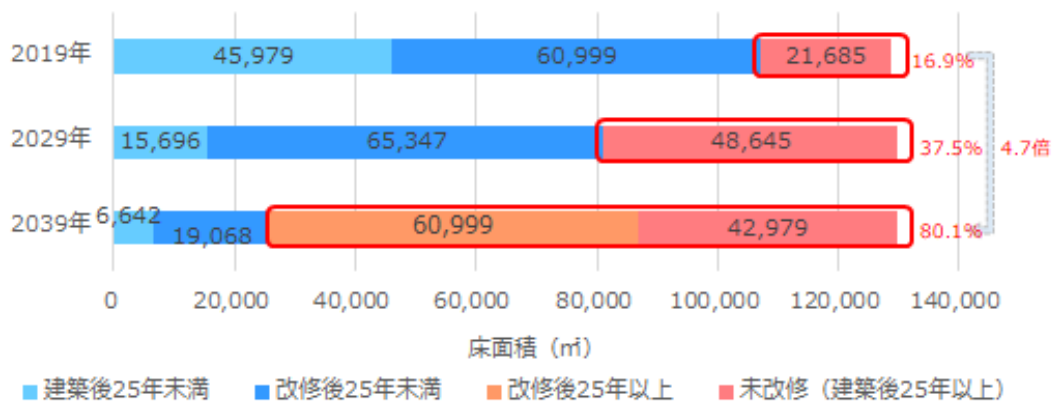
- ※ 第3期中期計画期間中は、本計画に基づく予防保全型の維持管理・修繕等への移行・準備期間
- ※ 第12期中期計画期間までの約50年間の見通しに基づいて計画策定

○ 対象施設の課題

- ・ 今後大規模改修が必要な建築物（建築後又は大規模改修後25年以上経過した建築物）は、20年後には全面積の8割になる見込み。
- ・ 基幹設備は、既にその多くが法定耐用年数を超過し、老朽化による故障・事故等の増加が懸念される。

⇒ 施設の老朽化の進行が深刻な課題

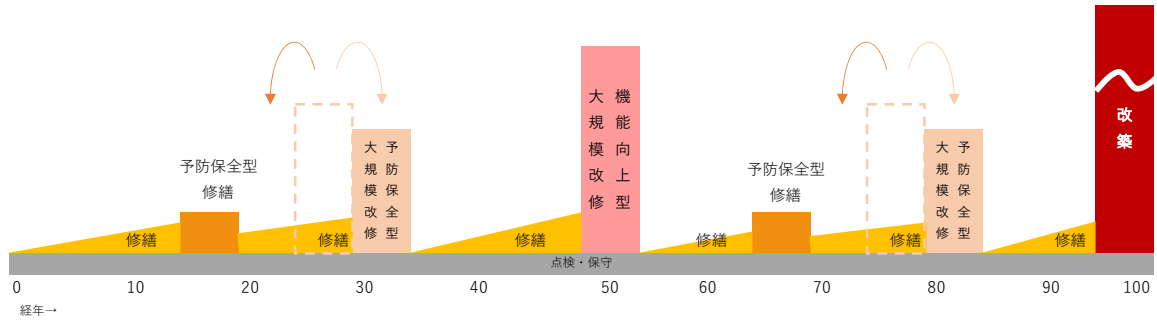
- ・ 特定時期に集中して整備してきたために、大規模な整備の時期の集中が想定され、経営上のリスク分散や教育研究活動への影響軽減を図ることが必要。



<大規模改修が必要な施設面積(推計)>

○ 中長期的なコストの見通し

- ・ 故障リスク回避及び財政需要平準化のため、予防保全型修繕等を組合せたサイクルによる長寿命化を図る。

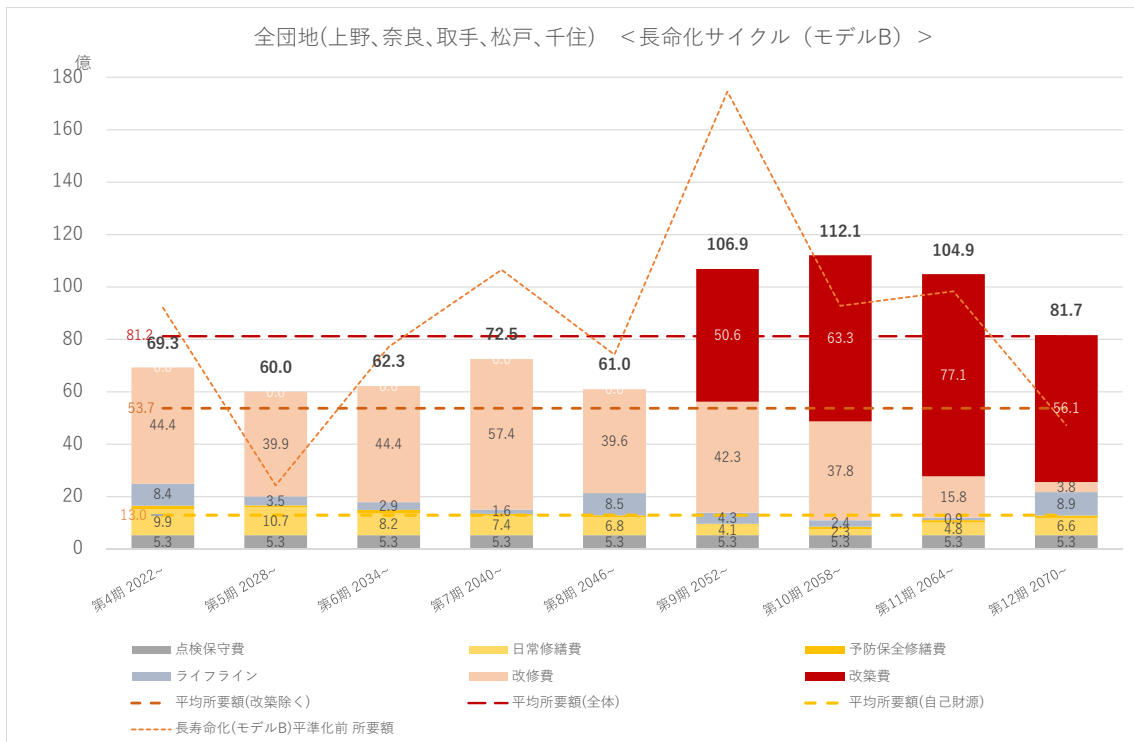


< 予防保全型修繕を組み合わせた長寿命化サイクル >

- ・ 年間平均所要額：約 13.5 億円（約 81 億円／期）

※ うち修繕・点検保守等：約 2.2 億円／年

（国庫補助金以外の財源によるもの）



< ライフサイクルコスト >

○ 維持管理・更新等の実効性向上策

- ・ 点検結果や修繕、利用状況等を総合的に評価（施設評価）し、修繕や大規模改修等に反映する。
- ・ 長寿命化サイクルの実効性を高めるため、第3期中期計画期間中は、事後保全型から予防保全型への移行・準備期間と位置づける。
- ・ 大学美術館及び奏楽堂の大規模改修等に向けて、新たな収入源の確保等に取り組むことが不可欠。
- ・ 施設担当職員の資質向上の観点から、各種資格の取得に対する支援や関連する研修・講習の受講や、国内外の事例視察等の実施を推奨。
- ・ 各施設の現状等について、様々な機会を捉えて役員等と共有。

○ 大学美術館・奏楽堂に関する計画

- ・ 長寿命化サイクルを踏襲しつつ、設備等に依じて実施時期を設定するなど大規模改修等の時期を分散させて実施。

予防保全型修繕 大学美術館： 1億円 奏楽堂： 0.6億円
 予防保全型大規模改修 大学美術館：10~13億円 奏楽堂： 7~24億円
 機能向上型大規模改修 大学美術館：23~44億円 奏楽堂：16~53億円

- ・ 大規模改修等の実施に際しては、検討・準備のための期間を十分確保するとともに、関係部局が連携・協力する体制の整備が必要。

| (期間目安) | (3Y~) | (1~2Y) | (0.5Y) | (2~3Y) |
|--------|-------|-------------------------|--------------|--------|
| 利用 | 現状把握 | 代替施設手配等 | | 代替施設利用 |
| 改修工事 | 準備期間 | 改修方針・基本計画 (工事中の対応含む) | 基本設計 実施設計 | 工事 |
| 財源 | 事前調整 | 申請 ★交付 | 業者選定 | |
| 国庫補助 | | 自己財源確保 | | |
| 自己財源 | | 自己財源確保 | | |

<スケジュールイメージ>

○ 今後について

- ・ 第3期中期計画期間中においては、本計画に基づく修繕や大規模改修を進めるとともに、第4期中期計画期間に予定されているものを出来る限り前倒しする。
- ・ 長寿命化サイクルを確実に実施する。
- ・ 本計画の進捗等を踏まえ、個別施設計画については不断の見直しを行う。
- ・ 第4期中期計画やキャンパスマスタープランの策定状況に応じて、本計画を見直す。